



KIYAMA, Hiroshi

大阪大学大学院医学研究科博士課程退学。医学博士。大阪市立大学大学院医学研究科教授などを経て、現在、名古屋大学大学院医学系研究科教授、副研究科長(大学院教育担当)。専門分野は神経解剖学、神経再生医学。

※1 / 指定国立大学  
世界最高水準の教育研究活動を進め、世界のトップレベルの大学との競争環境の中で社会や経済の発展に貢献していくことが期待される国立大学法人を、文部科学省が指定する制度。現在、指定国立大学は東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学の5大学。

留学先での研究が始まり  
JDPの活動が本格化

本研究科は2015年に「名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻」を設置し、日本初のジョイントディグリープログラム(JDP)を開始しました。学生は4年間の博士課程のうちに1年以上相手校に留学して研究を行い、修了時に本学と相手校による共同学位を取得できます。双方の大学がそれぞれに学位を出すダブルディグリーとは異なり、単一の共同学位を出すJDPでは大学間でのカリキュラムの調整が不可欠です。本研究科はこの高いハードルを乗り越え、オーストラリアのアデレード大学に続いて、2017年4月にスウェーデンのルンド大学ともプログラムを開始しました。現在、第1期の学生が両大学へ留学し、相手校の学生も本研究科での研究を開始するなど、プログラムが本格化したところです。2018年10月にはドイツのフライブルク大学との連携も予定し、日本の大学をリードしています。連携先の3大学はいずれも歴史ある大学で、その高度な研究力は世界で評価されています。特に医学分野では3大学ともノーベル生理学・医学賞受賞者を複数輩出しており、本プログラムの質を保証するものと言えるでしょう。一方で、学生が双方の大学で一貫した研究を行うには、相手校の研究室との研究内容のマッチングが欠かせません。そのため本研究科の国際連携室では、相手校ごとに担当教員を置き、密にコミュニケーションを取ることで、スムーズに共同研究を開始できる状況をつくっています。また、経済面では学生が研究に専念できるよう、留学期間中、学生1人当たり月数十万円の援助を行っています。内容・支援とも大変に魅力的なプログラムだと自負しており、

JDPを目的に本学の医学生が臨床研修を経て大学院へ戻ってくる流れ、また海外からも優秀な留学生が集まってくる流れを構築したいと思っています。

将来のキャリアにつながる  
国際共同研究の第一歩に

JDPのメリットはさまざまですが、研究面では互いの研究資源を活用できる点が挙げられます。例えば、こちらで作成した実験試料のデータを相手校で解析する、あるいは本学の研究テーマに関する実験を相手校の機器を活用して実施するなど、双方の大学で研究を効率よく進めることが可能です。こうした研究活動の最終的な目標は、学位論文を国際共同研究として発表することにあります。国際共同研究は論文の質を向上させるチャンスであり、世界の研究者から引用されやすい論文になれば、本人のキャリアはもちろん、大学のプレゼンスを高めることにもつながるでしょう。キャリアの面では、海外はPhD(博士号)の学位を日本以上に重視します。本学に加えてアデレードやルンド、フライブルクといった世界的に有名な大学名が入った学位は、国際的に見ても高水準の研究を行ってきたことの証明となり、将来のキャリアにとっては非常に有効です。また、できるだけ若い時期に海外の刺激的な環境で経験を積むことが、研究者の成長を加速させます。大学院を修了してからではなく、在学時に海外で研究をスタートできれば大きなアドバンテージとなるはずです。他学部 비해医学部の学生は大学院入学が遅くなるので、本プログラムを利用して少しでも早く国際共同研究をスタートさせ、大学院在学の間にも研究成果を出していただきたいと願っています。

“ 日本初の  
ジョイントディグリープログラムで  
国際共同研究を促進する。 ”

大学院医学系研究科教授 機能組織学

木山 博資 教授

KIYAMA, Hiroshi



学部教育から研究活動まで  
シームレスに国際化を推進

本研究科ではJDP以外にも複数の国際プログラムが稼働しています。その一つが2017年に立ち上がった「Global Alliance of Medical Excellence (GAME)」です。ミュンヘン大学やノッティンガム大学など、欧米・アジア・オセアニアの9大学が集まって一つのコンソーシアムをつくり、一緒に共同研究を進めています。また、ノースカロライナ大学チャペルヒル校と連携し、大学院生を3~12カ月間の短期留学に送り出すプログラムもスタートさせています。これにより留学については長期のJDPや短期のプログラム、研究レベルではGAMEを活用できることになり、海外の多様な大学との国際共同研究をより推進しやすい環境が整いました。本学では学部生が1年次から医学英語を学び、5・6年次には約2割が海外臨床実習に参加するなど、学部教育においても国際化に重点を置いて取り組んでいます。これらを一体化し、研究活動までシームレスに進めることで、必ず成果が出るものと確信しています。こうした研究・教育両面にわたる層の厚い海外連携は、多方面で高く評価されています。さらに、指定国立大学※1として、地域の他大学にもプログラムを開放し、地域の学生が世界へ羽ばたく支援を行いたいと考えています。今後も日本の大学の国際化を先導すべくプログラムの充実を図っていきます。